

韓国人は「チヂミ」を知らない？

国際交流員 キム ア ヨン 金雅英

日本で人気のある韓国料理の一つ、チヂミ。しかし「チヂミ」という言葉初めて聞いて、それが何かを分かる韓国人は少ないです。私自身も実際そうでした。

日本で一般的に知られているチヂミは、韓国語で「プチュムゲ (부침개)」と言います。プチュムゲは、チヂミ粉と卵に、キムチや海鮮、野菜のような具材を混ぜて薄く丸く焼いたものです。チヂミ粉を使うことにより、耳の部分はサクッと、中心部はもっちりとしているのが特徴です。



イカねぎプチュムゲ



旧正月の準備、チョン作り

一方、韓国でチヂミとは、標準語で「チョン (煎: 煎)」といい、野菜や魚、肉類を、薄く、またはみじん切りにしたものを塩などで味をつけ、溶いた卵やチヂミ粉の生地につけて焼いたものをいいます。チョンは主に一種類の材料を焼く場合が多く、旧正月や旧盆などの法事のお供え物として使われます。

それでは、元々韓国語には「チヂミ」という言葉はないのでしょうか。韓国の江原道と慶尚道、北朝鮮の平安道地方では、油に揚げて作る煎餅のようなものを「チヂム (지짐)」または「チヂマイ (지집이)」と言います。これを見ると、日本語のチヂミは、朝鮮半島の方言から来ているのが分かります。

キムチやビビンバのように韓国の標準語から来ている言葉は、韓国人の誰もが聞いただけですぐに分かりますが、チヂミのように方言から来た言葉の場合は、その言葉を使う地方の人でなければ、韓国人でも通じないのです。

人への優しさは
自分を磨く

筑陽学園中学校3年 いとう れん 伊藤 蓮さん



季節の生け花

太宰府市華道連盟

たまがわ まさこ 玉川 直子 (太宰府市梅香苑)小原流

花材 白木蓮、ユリ、オンシジウム ほか

つれづれ

太宰府短歌会

床の間に一日花の酔芙蓉
色の変化に我をかえりみる
福岡市 玉本 朝子
ふるさとに日々を過ごせば犀星の
詩が心に深く寄り来る
青山 磯村 順一郎
音楽に一生さげし古閑祐而の
真摯な姿に心打たるる
都府楼南 猪俣 泰夫

飛梅句会

朝練へ急ぐ自転車息白し
筑紫野市 羽野 喜久代
忽然と浮き忽然と潜る鳩
青葉台 平野 香

都久志てんじん句会

無造作な言葉の刃を噛む
青葉台 彦坂 正亨
風牙ゆる嫌いなものになつてゆく
筑紫野市 貞金 志帆

太宰府俳句会

MRIで脳は綺麗と太鼓判
暗きニュースの中での光り
五条 大穂 聡子
富士山を見ることすらも叶はねど
三十五年前登りし記憶
観世音寺 大久保 富士子

宝満句会

水鳥の楽園となる入江かな
青山 江里口 幸生
眠れなき夜もあらうが浮寝鳥
石坂 門谷 とも

太宰府川柳倶楽部

短日や持薬のながみ残る指
筑紫野市 津和崎 幸枝
一円の重み勤労感謝の日
福岡市 宮津 英里子

面取れば幼ナ笑顔里神楽
馬場 有岡 和砂

夜神楽の終ひ南郷村の闇
国分 松尾 満子

激しさに疎む思ひの里神楽
水城 福永 惠美

紹運の墓守りしまま山眠る
観世音寺 山口 律子

長針は秒針と化す十二月
小都市 宮原 勝彦

阿吽にて重ねし齢晦日蕎麦
福岡市 工藤 友子

登り来て光の中の芒かな
青山 竹家 京子

枇杷の花いつ盛りとも知らぬま
長浦台 徳賀 美智子

恙なくいつもの味の晦日蕎麦
石坂 野上 コト子

黒豆の味見もそへて晦日蕎麦
観世音寺 野田 杉子

面接にこれも時代かピエスして
湯の谷 山口 善暉

不況風明日は我が身の小商い
吉松 鈴木 弘市

もつとまだ揺れる立ち位置我が余生
長浦台 立嶋 浩

たるんだかマスク忘れて家を出る
大野城市 野田 茂生

花愛ぐる馳走も酒も生きてこそ
福岡市 王丸 真知子